令和６年２月１日（木）14:00～16:00
場所　裾野高校　会議室

静岡県立裾野高校　第４回学校運営協議会　議事録

１　校長　挨拶

田代直彦校長　挨拶

２　議事（司会　高橋委員長）

（１）　教育活動年度末報告について

総務図書課長　①PTA 活動の充実という目標をかかげ、PTA 総会の参加者 30%を目標にしたが、約 23%ということで目標には届かなかった。緑化作業やクロスカントリーについてはご協力を得て活発に行うことができた。

②式典行事の円滑な運営については、Zoom なども活用しながら、概ね順調に実施することができた。式典中の生徒の態度も静かであった。

③１人当たり図書貸し出し数目標平均 5 冊としたが、12 月末現在で１人平均 2.6 冊であった。

教務研修課長　①新教育課程の研究と観点別評価の円滑な実施については、より良い評価のあり方について職員全体で研究を続けていきたい。

②家庭学習時間平均 60 分を目標にしたが、2 月になったらアンケートを実施する予定である。1 台端末を利用してアンケートを実施したい。

③ICT 活用研修については 2 回実施することができた。比較的本校の教員は端末を利用した授業をしてくれていると思われる。

④基本的生活習慣については、出席率が 96%であり、昨年度の 98%を下回ってしまった。遅刻も前年度比約 60%増、早退も大幅増であった。コロナ禍の影響もあってか、学校を休むことに抵抗がない生徒が増加したように感じられる。生徒の自己管理能力の向上を図り、少しでも来年度は改善していきたい。

生徒課長　①生徒指導件数は昨年度を下回ったが、SNS 関係のトラブルが目立つ。

②学校行事については、生徒主体の運営を目標にした。球技大会や五龍祭など、大きな事故などもなく無事運営することができた。

③交通安全関係では、自転車のヘルメットについては着用率の向上に向けて生徒に呼びかけをしていきたい。

④自分の身を守る、命を大切にする点については、ネットを介した犯罪などに巻き込まれないようにする為に、外部業者にネット依存対策プログラムを全校生徒に実施するなどしている。来年度も継続して取り組みたい。

あと、校則についても時代にあわせて、いわゆるブラック校則などにならないように更新、見直しを進めていきたい。

保健相談課長　①命を守るということについて、本校の生徒は怪我や自転車の事故などが多い。学校施設に起因する怪我が起きないように日頃から施設の安全管理については点検などをしっかりやっていきたい。グランドが一部崩れてきているところもあるので細心の注意を払っていく。

②朝食摂取率が昨年度より低下している。家庭科などとも連携しながら、朝食を自分で調理するなどして摂取率の向上に努めたい。

③健康診断などの治療は、歯科治療など再診を勧めているが、事情によりなかなか受診しない生徒も多いので、面談などを通じて治療に行くように粘り強く指導していく。C ラーニングで保護者にも協力を要請する。

④校内美化については、残念ながらトイレの使い方のマナーが良くない、流しの使い方が良くない現状がある。引き続いて指導をしていく。

⑤特性を持った生徒への対応や指導については、コグトレを朝読書の時間に実施している。また、裾野市の子育て支援センターと連携しながら指導をすすめていきたい。

総合学科広報戦略室　①系列の特長を活かした情報発信については、facebook は前任担当者との引継ぎがうまくいかなくて機能できなかった。HP では、昨年度よりは様々な学校の情報を発信できている。来年度の HP の刷新に向けて準備していきたい。

②対外向け行事については、オープンスクールの参加者の声としてはポジティブな声が多かったように思う。更なる改善をしていく。

③生徒主体の情報発信については、HP で活発に生徒の生の声を届けることなどは昨年度よりもできてきたと思うが、生徒自身が企画したり、生徒自身が考案したものを発信したりというところまではできなかった。来年度はできるだけ生徒主体の発信ができるよう頑張っていきたい。

キャリア教育推進室　①１・２年生は新課程で端末も持っているが、３年生は旧課程で端末も持っていないという状況である。新教育課程のキャリア教育の狙いを鑑みて目標を再設定しなければならないと考えている。

②企画実行については概ね達成できた。１年生については探究プログラムとして「engine」を活用しながら進めていった。ある時は付箋を用いた話し合いの進め方を学んだり、時には google のストリートビューを用いて地域課題について検討したりと、探究学習を進めていく上でのスキルを習得させたりすることができた。２年生については外部講師を招いて、広島と静岡の違いついて考察させたり、chromebook を使っ

て調べ学習するなどして平和学習を進めていった。探究の成果を個人発表にしたらよい発表が多くみられ好評だったようである。３年部については旧課程なので、従来通りの進路実現に向けての指導が行われた。

③ICT の有効活用については大きな前進が見られた。1・2 年生については端末利用のスキルは大いに向上し、かつキャリア教育を充実させることができた。

進路課長　①３年生の進路決定については、第１回の就職決定率が約 93%を上回ることができ、とても良かった。進学希望者についてもまだ、受験を控えている生徒がいるが、総合型入試や指定校推薦などによりほぼ希望通り決定することができた。進路便りの発行も 4 月、9 月と発行することができた。就職指導については 3 年部を中心に組織的な指導ができた。

②進路行事の充実については、2 年生の 1 月の時点で、進路が明確に定まっている生徒の割合が 90%、1 年生は就職か進学かが明確になっている生徒が 90%という目標を掲げた。ただ、2 年生の就職希望者のインターンシップ参加率が目標の 100%には未達であった。進路意識の向上に努めたい。学力向上についてはベネッセの学力到達ゾーンにおいて、１・２年生両学年ともに A や B 判定の生徒が増加傾向にある。模擬試験受験者の増加や放課後の補講の利用率増加を目標にあげたが、これらについても目標をクリアできた。

（２）質疑応答

稲垣委員　PTA の組織について自分が元 PTA 会長だったことから少し話させて欲しい。PTA のルールとしては各地区の持ちまわりでいろいろな役職を選出している。各地区で便宜的に１，２，３というのを決めており、それらの人たちは、各役職の人たちが何らかの事情で PTA の役職を務めることができなくなったときにその１，２，３の人たちが代行する決まりになっている。PTA のなかでも長年様々なルールを決めて運営しているが、それらがしっかり継承されていないように感じる。PTA の過去のルールや取り決めをいま一度確認見直しをして確実に継承し適正な運営ができるようにしていってもらいたい。

高橋委員長　PTA の総会参加率 30%が未達についてですが、他の高校の総会の参加率はどの程度なのか？

校長　どこの高校も総会への参加率の低下が課題となっている。そのため参加率向上のために担任面談を同日に実施したり、各学年ごとに総会の日にあわせて懇談会を設置したりなど努力はしている。参加率はどこの高校も 50%は切っている現状である。

総務課長　毎年各学年で、総会の後に学年説明会などを開くのですが、その学年行事から参加する保護者も少なくないのが現状である。どうしても総会そのものは報告や承認事項が多くあまり興味を引くものにはなりにくいので難しいと感じる。

山本委員　総会は平日開催ですか？

総務課長　昨年度は土曜日に開催したが、参加率はそれほど変化なかった。だから、今年度は平日開催にした。

山本委員　総会の参加率だけで、PTA 活動の充実度が計られるわけでもないので、総会の参加率が低いことをそれほど気にする必要はないのではないか。あと、PTA の仕事のアウトソーシングが進められているが、裾野高校は現状どうなのか？

総務課長　アウトソーシングはしていない。今後検討課題としていきたい。

稲垣委員　総会開催の日にバザー品の回収をしたりしてみてはどうか。また、PTA 役員の任期についてだが、総会から次年度の総会までの 1 年間が任期なのだが、今年度の総会では、前年度のＰＴＡ会長だけが来ていて、他の役員さんが一切来ていなかった。ＰＴＡの役員の皆さんの認識ももう少し高めていけたらいいなと感じた。

高橋委員長　総会の参加率だけにフォーカスすると低く見えてしまうが、緑化作業やクロスカントリー大会の補助など、他のＰＴＡ活動はやってくれているので、総会の参加率にあまりこだわらない方がいいのではないか。あとは、ＰＴＡ役員の意識の向上やルールの見直しや徹底をもう一度役員さんの中で話し合ってもらえればと思います。

山本委員　新学習指導要領に関連して、chromebook などで調べ学習をすることがＩＣＴを使った探究学習の目的なのだろうか？生徒主体の戦略的な広報活動を行うことも含めて生徒を巻き込んで裾野高校の今後の在り方について議論する必要性もあるのではないだろうか。生徒自身にも自分たちがどのようにすれば、裾野高校がより活発化して発展していくか、考えさせることも大事だと考える。そのようにして問題意識を生徒とも共有するということは新学習指導要領ともリンクすると思う。探究学習をするということを意識するのであれば、「調べ学習をする」という文言はまずいだろうと思います。あと評価と取り組み目標の不一致が多くみられる。例えば、「探究活動の企画・実行」という文言があるが、これの主体は誰なのか。教員なのか、生徒なのか。探究活動の核は問いを自分で設定することなので、そこの主体を明示した方が良いと思われる。さらに、キャリア教育について職業体験の話が全く記載されていないが、そのあたりについてはどのように進めていかれるつもりなのか知りたい。

キャリア教育推進担当室　調べ学習から探究学習については、本校ではまだ発展途上だ

ととらえている。探究活動の成果を発表するに際して、３月には１・２年生の探究活動の成果を外部の方を招いて発表会を行う予定である。ゆっくりとした歩みではあるが、すこしづつ改善・質の向上を図っていきたい。

山本委員　ただ、それは先生方が設定しているということですよね。そこに生徒が関わっていった方がいいのと、大学の模擬授業なんかを大学の先生にお任せという感じの取り組みもあると思いますが、それは１回ぽっきりで探究学習につながっていかないので、そこは注意した方がいい。外部から評価者を呼んでコンクール形式にしている高校もある。そういう取り組みを常葉大学と静岡大学でコラボしてやろうということにもなっている。その時にただ単に生徒の発表を聞いてください、ということではなく、探究学習の学びの過程を可視化できるようにしてもらいたい。子供たちが、学習の成果を発表して、さらに課題意識を深めていくということが肝要だと思うので、単に発表して評価してもらって終わりという形式にとどめないでもらいたい。高校側ではどのような評価基準を設定しているのかを明らかにしてもらいたい。

小田委員　３月の発表会では地域枠の生徒を中心に、司会や当日の運営も含めてすべて生徒たちが主体的に運営していくと聞いています。外部評価者への依頼も含めて生徒たちが行うようです。別件ですが、来年度の新２年生は裾野市の職員とタイアップして行う予定だと聞いています。今年４月に裾野高校に赴任した教員も意欲的に取り組んでいるので、来年さらに期待してもらいたいなと思います。

キャリ教育推進室　昨年度は市役所職員と１年生が連携して地域課題に取り組みました。ただ、１年生ですと探究学習の基本的なスキルや、外部の人とコミュニケーションする時の基礎的なソーシャルスキルもまだ身についていないのかなと感じた。１年生ではまだ、早いなということで今年度の１年生については「engine」とい探究学習のスキルや考え方が学べるプログラムを実施している。そのうえで２年生になったら、上のレベルの成果発表会などにチャレンジしていこうと考えている。

小田委員　私自身が榛原高校のグローカル部の活動を支援していく中で、榛原高校の生徒たちは自分たちで榛原高校の志願倍率をどうすればあげることができのか、ということについて議論をしていて、それは教員に押し付けられたわけでもなく、単純にうらやましいなと思いました。榛原高校は素敵な高校なのに、どうして地元の中学生にその魅力が伝わらないのか、ということを探究活動に取り入れていた。私自身が最後の部分しか関われなかったので、もう少しさらに深いところまで到達させてあげられなかったことが悔やまれるのですが、生徒自身がそういう問題意識を持っている点が素晴らしいと思った。

山本委員　志願倍率の問題については、少子化の問題もあるので現代社会の抱える課題

として、統計資料の読み方の学習にもつなげられると思う。探究の時間だけで完結させようとするのではなく、他の教科と連携してまさにカリキュラムマネジメントが問われる。あと、非常に気になるのが大学受験の在り方が変わろうとしているのに、高校の探究学習を含めた様々な学習の在り方がこれで大丈夫だろうかいう危機感を覚える。ただ単に知識を増やすだけの学習をしていたら非常にまずい。キャリア教育は新学習指導要領のキーなので、担当の先生たちにお任せではなく、全学校的な取り組みが求められる。創造性を育むことは、高校教員が一番苦手とする分野なので、お互いに教員同士がフォローする仕組みを組織横断的に構築する必要があると思う。

高橋委員長　３月１２日に行われる総合的な探究の時間の発表会に向けては、校内外で準備が進められていると聞いているが、どういったものになりそうか？

志田委員　１２日の発表会は我々も参観させてもらえるのか？

小田委員　参観可能だと思います。地域の方々にも来てもらい、講評まで含めて評価していただく予定だと聞いています。当日の朝の準備が大変なので人手が欲しいと聞いています。

キャリア教育推進室　午前開始なので、準備段階からバタバタすると思います。

小田委員　いろいろな人に協力を呼びかけます。１年生については地区予選を勝ち上がり、県大会まで進出したグループもある。静岡銀行と組んだグループの発表内容は驚くほど良い内容だった聞いている。楽しみにしている。

田代校長　自分たちの考える地域の課題を、企業のリソースを使ってどのように解決していくのか、という内容の発表だった。地域予選を勝ち抜いて、県大会発表に向けて、内容をよりブラッシュアップさせたものを県大会で発表した。立派だった思う。

山本委員　総合的な探究の時間の成果発表会を行う学校はたくさんある。学校内ではなく誰に向けて発表するのかということがとても重要である。校内の評価基準は緩くなりがちである。学校外の場で発表することが生徒たちの自信にもつながるし、自己肯定感の高揚にもなる。１年生の取り組みは高く評価できる。

　別件だが、保健相談課のコグトレについてですが、IQ がグレーゾーンの生徒たちについて医療など外部との連携はどのようになっているのか？

櫻井副校長　今は通級という形で対応している。SSＴを行いながら個に対応した指導をしている。ただ、グレーゾーンの生徒も少なくなく、一方で通級などを行える教職員は少ない。必要とする生徒は潜在的には多いと思われるが様々な資源が不足しているのが現状である。

山本委員　認知機能に問題のある生徒がコグトレに強制的に参加させられると逆に状態が悪化するのではないかという心配もある。できれば分けたりする配慮が望ましい。

櫻井副校長　本人や保護者の希望があって、通級に入るようになるのだが、義務教育と異なり通常授業への出席もしなければならないので、放課後の限られた時間で行わざるを得ないという制約もあるのが現状ではある。

高橋委員長　義務教育段階でそうしたグレーゾーンの保護者と関わる機会があったが、保護者の立場からすると、「うちの子は違う」と主張される。高齢者施設においては、認知症について「おじいちゃんは認知症ではない」とご家族が主張される。ご本人やご家族の気持ちも大切だが、小学校だと３年生くらいで特別支援クラスにいくか、通常クラスにいくかを保護者が判断する。先生たちの保護者に対する勧めもあるのだが、親も葛藤があって踏み切れずにいるが中学校進学段階で支援クラスに行くというパターンが多いと聞く。非常にデリケートな問題で、高校生ともなると自分である程度判断できる発達段階なので無理やりやらされたと生徒が感じるのも良くないだろうし、一方で通級をした方がいいという学校側の判断も尊重しないといけない、どちらにしても難しい問題だと思う。

櫻井副校長　通級に通う生徒に配慮して、コグトレ自体はほかの生徒と同じ時間で受けてもらっていて、通級自体は放課後実施という形を採っています。

山本委員　気をつけたいのは、その、みんな一緒というところが怖いところでもある。本人がどの程度受容しているかという点や、みんなと一緒にさせられることが逆に状態の悪化を招くケースもある。大学でも相当数のグレーゾーンの学生が増加傾向で対応に困っている。様々な支援はしているが、何ができて何ができないのか、という見極めをみんな一緒ではなく、個人に対応して進める事ができる道が求められる。みんなが大学進学するから、自分も進学すると、グレーゾーンの生徒学生は進学した後、大学で留年してしまうケースも少なくない。留年すると学費もかさむ。就職支援のありかたも難しい。コグトレについてはできれば、分けて指導なり対応した方がいいのではないだろうか。

小田委員　一部活一ボランティアの取り組み状況について教えてください。来年度も継続して取り組んでやるのかどうか。

福室教頭　コロナも収まったので、来年度も続けて取り組む。

小田委員　一部活一ボランティアが実際にどのような取り組みをしているのかが、外部に伝わってこないので、ＨＰに掲載するなどして広報にもつなげてほしい。

福室教頭　総合探究部が行った裾野駅周辺の清掃活動などはＨＰにも掲載されているかもしれませんが、広報誌やＨＰにも掲載するなど充実させていきたい。

小田委員　一部活一ボランティアで助けが必要であれば遠慮なく言ってもらいたい。いくらでもサポートしたい。

高橋委員長　過去には部活単位ではなく一生徒個人が駅から学校までの通学路の途中でお年寄りの家庭のゴミ出しをしてくれていた事例もある。一番の問題はゴミ

出しの時間が８時までと指定されていること。どうしても生徒の通学時間帯とあわないので、そこは苦しいところではある。

小田委員　自転車通学している生徒で早めに学校に来ている生徒が協力してくれればできないことはないと思う。一番の問題はゴミ出しを希望する家庭と生徒とのマッチングだと思う。

高橋委員長　もし、ごみ出し希望する家庭があれば、裾野高校に紹介、依頼することがあるかもしれませんが、その時は校内で募集などを募ってほしい。昨年、清水区で水害ボランティアを裾野高校にお願いしたら３名位の生徒が応えてくれた。今回の能登半島地震の募金ボランティアでも生徒会の生徒が４～５名が街頭募金活動に協力してくれた。多くの方が募金に協力してくれ千円札での募金が圧倒的に多かった。１時間の募金活動で７万円集まった。こうしたボランティア活動を生徒会の生徒がしてくれたことをこの場を借りて紹介させていただきます。

志田委員　そういう取り組みをしていることがなかなか伝わってこないので、広報活動にはさらに力を入れて頑張ってほしい。

小田委員　広報戦略室の担当になると思うので、頑張ってください。

高橋委員長　私どもの社会福祉協議会の広報誌にも掲載していきたい。

小田委員　ＳＮＳの発信業務は管理職マターが多いのですか？

櫻井副校長　実際に承認をするのは管理職なのですが、来年度については facebook でなくてもいいと考えている。高校生は facebook はあまり見ないので、別のＳＮＳを活用も検討していきたい。

高橋委員長　１５秒の動画でも、募金お願いします、というＳＮＳの活用もありなのかと思う。

山本委員　生徒たちに作らせてあげればいいと思う。管理は必要だが、作ることに関しては生徒の感性を活かした方がいいと思う。学校内でコンクールを開いてもいいと思うし、生徒のモチベーションも上がると思う。

志田委員　ＨＰに関しては、部活の試合結果などのデータがダウンロードできない。見ただけではわからないこともあるので、できればダウンロードできる仕様にしてもらえればありがたい。

高橋委員長　募金活動に来てくれた高荷君は陸上部でハンマー投げですが、多くの生徒は投擲している実際の映像をほとんど見たことないと思う。動画で投げている映像をＳＮＳで提供することも面白いと思うので、いろいろと注文ばかりになってしまうが広報やＳＮＳの活用について学校側で更なる検討と充実を図ってもらえれば裾野高校のためになると思う。

小田委員　御殿場南高校では、卒業式のライブ発信をしている。裾野高校の広報戦略室にお任せではなく、外部の人に少しでも多く裾野高校に関わってもらって、裾野

高校をより盛り上げていけたらと思います。

高橋委員長　ライブ配信についてはよりインパクトがあるので、学校には更なるＳＮＳの有効活用を検討してもらえればいいなと思います。

別件ですが就職内定率が９２．６％だが、最終的には１００％になっているのかどうかという点と、進学者の決定率が９０％決定しているということだが、就職も進学も最終的な決定率はどのようになるのか？

進路課長　まず、９２.６％という数字は、第１希望の就職内定率の数字であることにご留意願いたい。第１回目の就職試験内定率が９２.６％であるということ。昨年度も９０％を超えています。一昨年度は９０％弱でした。１回目の就職試験で不合格であった生徒も２回目以降でほとんどの生徒が就職内定をいただいておりますので、ほぼ１００％に近い数字になります。

進学については、これから試験がある生徒が２名おります。本校の進学者の多くが学校推薦型がほとんどですので、他校さんと比べるとこの時期の進学者の決定率は高くなります。

稲垣委員　１月の進路希望調査票の結果によれば、進路先の決定率が２年生は８２％、１年生が７０％ということだが、１年生は進む系列が決まっている生徒が７０％ということなのか？

進路課長　１年生のこの数字に関しては、系列は決まっているのだが、卒業後の進路については、未定の生徒が残りの３０％というふうにご理解いただければと思います。

稲垣委員　わかりました。安心しました。

高橋委員長　では、続きまして学校自己評価について審議お願いします。

櫻井副校長　学校経営報告自己評価の資料をご覧ください。達成状況評価については、各分掌からの報告に基づき評価案を提示させていただいております。この後、学習状況調査や進路決定率など最終的な数字がでてきましたらそれらを加味して最終的な評価がすべて出揃うかたちになります。

まず、基本的な生活習慣については、欠席遅刻早退は多いのですが、生徒の自己アンケートによると服装については自分たちなりに気を付けて正しく着ているという自己評価がありますので高めの評価になりました。社会性規範意識については生徒指導件数が昨年度比２５％減少していることから、B 評価としました。いじめの防止やスマホの適切な使用、健康安全に関する指導については、生徒のアンケートの数字が昨年度を下回ったので、やや低めの評価となります。避難訓練については、地域防災訓練の参加率が非常に低いのですが、学校で行われる避難訓練の大切さについては生徒も十分に理解していますので B 評価としました。

総合学科の特色、地域人材の活用についてです。ICT の活用は全職員が研修

を２回以上行い授業で活用するなどして意識も高くなってきておりますのでA評価にしました。また、家庭学習をしている生徒ですが微増している点は評価できるかと思います。系列や選択科目が進路希望に応じている点につきましては、地域人材の活用が９１件ということで、昨年度に比べると大きく減少していますが、予算が大幅に減ってしまったことなどを考慮いたしますとやむを得ないであろうということでB評価としました。

キャリア教育に関しては、先ほど進路課長から具体的な説明もありましたので割愛させていただきます。

学校行事などを通じて活性化を図ることについては、行事などは生徒主体で運営し頑張っているおり、生徒自身の満足度も８０％が満足と回答していることからB評価としました。

広報については、C ラーニングという校務支援システムを導入し、学校の様々な情報が以前より得やすくなったと回答した保護者が増加しましたのでB評価となっております。

生徒の国際化の推進、グローバル人材の育成については、英語検定合格者数の増加などを評価して B 評価としました。商業系の検定についても電卓１級１８名合格となっております。

最後に教職員の研修などに関しての評価です。全体としては本校の教職員は積極的に各種の研修に取り組んでくれています。ただ、カリキュラムマネジメントについては、各教科の教員がお互いに具体的にどのような授業をしているのかという事についてはまだまだ、相互理解が十分とは言えない状況があると思います。教科横断的な視点を涵養することが今まで以上に求められると考えております。職員の勤務時間については、比較的、夜、遅くまで残業する職員は少ないと捉えています。働き方改革の自覚も芽生えているように感じます。簡単ですが説明は以上になります。

高橋委員長　では、質問などありましたら、お願いします。

避難訓練についてです。高校生の参加率低いというご報告でしたが、行政や各自治体の側にも問題もあると思う。いつも同じことをやっている。やり方を考えないと参加率も増加しないと思う。あと、自転車通学者のヘルメット着用率についは、自転車通学者にヘルメット着用を義務付けないと解決しないと思うが、学校側でそこまで強制させていい問題なのか、微妙な問題でもある。昭和５８年から原付バイクについては法律でヘルメット着用が義務付けられた。だから、ヘルメット着用が当たり前になったが、自転車については国の法整備の問題もあろうかと思うが、そのあたりはどんなものだろうか？

小田委員　このあいだ松山に行ってきた。松山では高校生は当たり前にヘルメットを全員着用していいた。なぜかを問うたら愛媛県では条例で着用が義務付けられ

た。さらに、愛媛県の公立高校ではヘルメットは全員支給されていた。だから、それぐらい行政の側で取り組まないと、ヘルメット着用率は１００％にはならないと思う。

山本委員　保険は加入しているのか？

櫻井副校長　それは全員加入しています。

小田委員　防災訓練は自分の地区でトークフォークダンスを実施した。大好評だった。裾野市の地域振興課の広報誌にその様子が掲載された。住民同士がフラットに話をする機会がなかなかない昨今、防災訓練で隣人同士で話をして人間関係を構築してお互いに顔見知りなるには非常に効果的である。そのトークフォークダンスの司会進行役を裾野高校の生徒が担えるといい循環が生まれるなと考えていて、トークフォークダンスをやってみたいけど、司会進行をする自信がない地域や地区の進行役を裾野高校にオファーをくれるという風になると理想的だと思う。

高橋委員長　地域も町場と農村地区ではかなり人間関係の濃淡の温度差がある。トークフォークダンスを実施できたという先駆けとしては素晴らしい取り組みができましたね。

小田委員　私が居住する地区は比較的無骨な住民が多い地区だが、体育館でトークフォークダンスを実施したが、誰も文句は言わず好評のなかで終えることができた。小学生からお年寄りまで幅広い年代で盛り上がった。

高橋委員長　中学生までは、中学校の指導で参加するように言われているから、参加率は高い。自治体側も高校生が参加したくなるような仕掛けを考案しなくてはいけないと思う。

山本委員　朝食接種率についてだが、私自身が中学生を対象に質問紙調査を行ったが、週に何日朝食を食べれますか、などを調査した。結果はかなり深刻でただ単に朝食を摂らないという話ではなく、家庭の経済状況で食べられない実態もあり同列で考えることはできない状況だから、より細かく朝食を食べられない理由を質問項目を変えて、調査する必要がある。

高橋委員長　食べたくても、食べられないのか、ただ単に食べてこないのか、ということですよね。

山本委員　１日１食の児童生徒も相当数いる。三島はそういう児童生徒にお弁当を配布している。塾の費用を支援しているところもある。高校生でも当然そういう貧困に苦しむ家庭はあるので、要注意だと思う。

高橋委員長　平成２９年から、社会教育福祉会の方でも、学習と夕ご飯両方を支援していく取り組みを始めている。月に２回だが、お弁当の配布事業も行っている。この他、お米や野菜の配布などもしている。地域の企業の中にもお菓子を寄付してくれる事業所もある。ご指摘の食べないのか、食べられないのか、という細

かな調査をする必要性はあると思う。女性の生理用品の支給なども行っている。

山本委員　大学でも生理用品の支給はしている。貧困は想像以上にある。
朝食摂取率調査については、貧困家庭の子供さんは、配慮が必要な場合もあるので質問項目を変えたほうがいいと思う。

櫻井副校長　この朝食摂取率調査自体が県の調査項目そのままで、始まった当時と今の社会状況の変化に対応していない部分が多分にあると思われます。

山本委員　県に対しても、調査項目を変更するように要望してください。

高橋委員長　ヘルメットの件も購入できない家庭もあると思うので、行政へ要望すること大事だと思う。朝食も食べられない家庭も実際にあるので。

小田委員　愛媛県はヘルメットのデザインも複数から選べるようになっていたと思います。

高橋委員長　では、評価用紙について副校長から説明をお願いします。

櫻井副校長　評価用紙を一度お持ち帰りいただいて、２月中旬までに学校までお送り下さい。皆様から頂きました評価を改めて再度ご確認いただいて最終評価としたいと思います。

山本委員　資料にある保護者アンケートの結果についてはどうしますか？

櫻井副校長　保護者アンケートでは、保護者の声をそのまま資料に掲載しました。このような想いを保護者がお持ちであるということで参考にしてもらえればと思います。

山本委員　保護者の声をカテゴリー分けして、度数を出してもらえるとありがたい。

櫻井副校長　保護者アンケートの実施時期が本校は１月なのですが、他校では１２月に実施しているところもあり、事務局としては実施時期をいつにしたものか少し悩んでいます。

山本委員　一カ月くらいの差では、保護者の声は変わらないと思う。フリーソフトで分析も素早くできるので、そういうもので分析したらどうか。保護者のタイプによって何を重視して学校に求めているのか、が判別できてくると思う。それを受けて学校がどのような戦略をたててこれからの学校経営をすすめていくのか、が見えてくるのではないか。

高橋委員長　学力をつけさせて欲しいという保護者と、空調設備を整備してほしいという意見やら、様々な視点やご意見がありますね。

小田委員　当たり前に高校で自分の子供に成長してほしいという意見があって、なおかつ裾野高校全体がより活発に意欲的な学校になっていって欲しいというご意見でしょうかね。

山本委員　この学校を志望した時の理由と、このアンケートでのご意見を重ねて分析するといいと思う。こういう理由で裾野高校を選んだ保護者は、このような事を

裾野高校に期待しているのだという関係性がわかってくると思う。募集の戦略を立てる上ではかなり有効だと思う。

小田委員　PTA 総会の出席率だけがどうこうではなく、保護者も裾野高校にも期待をしているということですよね。

山本委員　大学では三者面談と抱き合わせで行事を行うこともある。PTA 総会も何と抱き合わせて行うのか、どうすれば保護者が来てくれるのか、マーケティングの視点で考えることが大事ですね。

櫻井副校長　学校評価を後日、提出していただく際にコメントなども頂戴できればとてもありがたいです。

高橋委員長　それでは、２月１５日までの回答期限ということで、学校評価のほうをよろしくお願いします。

櫻井副校長　１年間、委員の皆様には貴重なご意見をいただきまして本当にありがとうございました。次年度もまたよろしくお願いします。以上を持ちまして今年度の学校運営協議会を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

櫻井副校長　貴重なご意見、ありがとうございました。その他、次回第４回は年明けになります。よろしくお願いします。

第３回運営協議会はこれにて閉会させていただきます。